

先 駟

66・6・25
23号

1部 20円
25号分 400円(千共)
先 駟 社
東京本社 東京都千代田区
神田駿河台3の2
東京ビル内 (251) 72113
大阪支社 大阪市福島区
洲上3の3土質ビル内
(458) 0235
京都支社 京都市左京区下
鴨宮崎町128の29
振替 東京64937
編集発行人 正木 真一

すべての工場、地域、学園に
共産主義者同盟を
組織せよ！
共産主義者同盟統一委員会

反帝戦線への結集へ

第二次共産同の建設を軸に

来る六月十五日は、革命的同志、樺美智子が六年前安保闘争の高潮なかで官憲の手によって虐殺された日である。わが同盟はこの日を日本帝国主義国家権力と支配者階級の憎悪とゆるがぬ

東京においては新左翼諸派との協力的な、すでに集実行委員会事務局が集会の成功のために活動を開始しており、名古屋、大阪においても集会開催のためのわが同盟同志を中心とした努力が開始されている。

復讐の決意を新たにする日として記念し、全国的に各地の戦闘的労働者、学生を結集して「安保六・一五記念政治集会」をひら

て全階級の階級への政治的積極さのたもつれによつてさらに全体

の局面に對しての革命的左翼の対応を問うものであり、いわばこれらの指針が全体としての反帝戦線にむけての主要な課題として

すなわち既成左翼指導部が日本ブルジョワの帝国主義発展に對して全く無力化しつつある局面で中心的に日本帝国主義と国家権力と對決する旗印を掲げて前進しうる部分を結集し、労学階級の全体を通じて組織しめくことこそ今年以後来るべき政治的決戦へむけての革命左翼の共通の課題となっている。この課題を遂行する出発点として本集會はその位置と第一の意義をもっている。

一方また進展する既成指導部の体制強化と形骸化、議會主義の革命的展開の要は、それを乗り越えて前進しようとする革命的左翼のこの課題を遂行を媒介しつつ、それ自身も断然日本における革命的前衛と指導の建設的問題を同時に提起せざるを得ない。

はじめても述べたごとく、われわれはこれまでこの問題に關して一貫して長期の執拗な努力を追求してきた。昨年における、わが総

あることなく、革命的左翼の展望とその手かきを明らかにする。安保以後六年を経た革命的左翼の進歩は、今も決して単純なものではなく、より多くの問題点を本集會の第二の意義は、第二次共産主義者同盟の建設とそれへの結集を大胆に明らかにしうること、そして政治的組織の明確化による革命的左翼の方向を明らかにして、かつ具体的に志向(三書記局)

六月十五日(水)午前六時
東京・九段會館(国電飯田橋地下鉄下車)
入場券 一〇〇円(全日會場でも扱いませぬ)
主催 六・一五集実行委員会
都警連
なお、六・一五五日、大阪、名古屋においても同盟主催の「六・一五集會」が行なわれる。

選挙に勝利し全学連再建を

桃山、電通大に闘う執行部

全国各大学ではすでに六月自治選挙戦に突入した。この六月の選挙戦は次の意味において極めて重要である。安保後の運動の転換を遂行し、七十年へ向け、組織再建、国内の反動激化の全学連再建。

この間の選挙戦において北海道においては大学が全て民営系であり、五月下旬より選挙戦に突入し、道学連を名の民営の策動は、わが六月七日の投票で勝利。

同派はこの間の選挙戦において以上の三点を中心として原潜闘争以降の学生戦線の一定の昇揚を遂行し、七十年へ向け、組織再建、国内の反動激化の全学連再建。

この間の選挙戦において北海道においては大学が全て民営系であり、五月下旬より選挙戦に突入し、道学連を名の民営の策動は、わが六月七日の投票で勝利。

▲東京医科歯科大学
教養、学部ともに選挙を終り、闘う執行部が鉄の防衛を貫徹この間インター闘争を闘う医学連の中心部隊として役割をはたし日韓以降の運動の中でも熾烈なる運動を展開すると同時に民営の医学連内部における分裂策動をわが力であつた。

第二次共産主義者同盟建設のために

安保闘争以後六年間の闘いは革命的左翼にとって孤立と分岐の苦闘であつた。革命的左翼が強力なひとつの階級に融合されていくためには、この時期は単なる和解と妥協によつては清算されるものでありえない。にもかかわらずわれわれはこれまで一貫して革命的左翼の協同行動を積極的推進させ、かつまたその協同のための多くの努力を払ってきた。われわれの関心する限りにあつて、六・一五集會は八月集會と並び、もう一つの革命的左翼全体のあり方について多くの問題提起をしたのである。そのなかにおいて日本における革命的階級闘争のあり方、方向をめぐらしたし、それに明確な方針を定めた。そのなかでわれわれの責任として課せられたところの歴史的使命であるという理解のみがわれわれの困難なこれまでの努力を支えてきたのである。

われわれはこのシリーズにおいて近頃の組織統一の対象であるマルクス主義階級闘争にたいする批判を展開しているが、前号においては、彼等の階級闘争の意味と情勢分析における階級の動向規定についてその一面性を指摘し、かつ基本的組織対応が自然発生性に埋没する危険性のあることを明らかにした。

またわれわれは「安保六・一五」に揭された「プロレタリア統一戦線」における日本労働組合の任務を具体的に記した。

「日本労働組合は戦後の成立期にふたたびまた闘争の真只中労働者大衆の階級闘争を組織して復活するならば、たまたまその道を問われなければならないことである。しかるにこの日本のソビエトと転化する

あつた。「半敗北を基礎として、戦後階級闘争の第二期、資本主義体制の限界内での取闘争としての労働組合運動がはじまった」「この取り闘争を今日まで一〇年あまりの長期にわたつてもかく

「日本の労働組合は戦後の成立期にふたたびまた闘争の真只中労働者大衆の階級闘争を組織して復活するならば、たまたまその道を問われなければならないことである。しかるにこの日本のソビエトと転化する

同派の諸君がこれまでの革命的階級闘争の方向を回避し、自然発生性に陥つてくる危険性を必然化している。

この問題におけるまかしは「取り闘争の成立」の原則に關して、その前段と後段における論議のすりかえを必然化させている。「半敗北」から「取り闘争」の成立の關係においては「半敗北」が「取り闘争」の成立の基礎を成立させた。その後の「取り闘争」の成立の關係においては「半敗北」が「取り闘争」の成立の基礎を成立させた。

▲桃山学院大学
フロントを打ち破り執行部を確立。
大阪にあってフロントを中心とする学連執行部と民営系上級階級闘争を確立し、桃山学院の勝利は、再び大阪における闘争の再建へ向け、着実に前進している。

自然発生性への拜脆が

皮相的な戦後階級闘争の総括の所産

マルクス主義戦線派批判

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

「人民大衆の生活と権利にたいする攻撃こそ日本資本主義の生存がもつていなければならない。」「

安保6・15政治集会を

60年代後半の階級闘争にむけて

安保闘争以後六年間の闘いは革命的左翼にとって孤立と分岐の苦闘であつた。革命的左翼が強力なひとつの階級に融合されていくためには、この時期は単なる和解と妥協によつては清算されるものでありえない。にもかかわらずわれわれはこれまで一貫して革命的左翼の協同行動を積極的推進させ、かつまたその協同のための多くの努力を払ってきた。われわれの関心する限りにあつて、六・一五集會は八月集會と並び、もう一つの革命的左翼全体のあり方について多くの問題提起をしたのである。そのなかにおいて日本における革命的階級闘争のあり方、方向をめぐらしたし、それに明確な方針を定めた。そのなかでわれわれの責任として課せられたところの歴史的使命であるという理解のみがわれわれの困難なこれまでの努力を支えてきたのである。

われわれはこのシリーズにおいて近頃の組織統一の対象であるマルクス主義階級闘争にたいする批判を展開しているが、前号においては、彼等の階級闘争の意味と情勢分析における階級の動向規定についてその一面性を指摘し、かつ基本的組織対応が自然発生性に埋没する危険性のあることを明らかにした。

またわれわれは「安保六・一五」に揭された「プロレタリア統一戦線」における日本労働組合の任務を具体的に記した。

「日本労働組合は戦後の成立期にふたたびまた闘争の真只中労働者大衆の階級闘争を組織して復活するならば、たまたまその道を問われなければならないことである。しかるにこの日本のソビエトと転化する

「日本の労働組合は戦後の成立期にふたたびまた闘争の真只中労働者大衆の階級闘争を組織して復活するならば、たまたまその道を問われなければならないことである。しかるにこの日本のソビエトと転化する

同派の諸君がこれまでの革命的階級闘争の方向を回避し、自然発生性に陥つてくる危険性を必然化している。

この問題におけるまかしは「取り闘争の成立」の原則に關して、その前段と後段における論議のすりかえを必然化させている。「半敗北」から「取り闘争」の成立の關係においては「半敗北」が「取り闘争」の成立の基礎を成立させた。その後の「取り闘争」の成立の關係においては「半敗北」が「取り闘争」の成立の基礎を成立させた。

▲桃山学院大学
フロントを打ち破り執行部を確立。
大阪にあってフロントを中心とする学連執行部と民営系上級階級闘争を確立し、桃山学院の勝利は、再び大阪における闘争の再建へ向け、着実に前進している。

▲東京医科歯科大学
教養、学部ともに選挙を終り、闘う執行部が鉄の防衛を貫徹この間インター闘争を闘う医学連の中心部隊として役割をはたし日韓以降の運動の中でも熾烈なる運動を展開すると同時に民営の医学連内部における分裂策動をわが力であつた。

▲以下次頁

